

# 令和6年度第2回熊本県立美術館協議会

【開催日時】 令和7年2月7日（金）午前10時00分～12時00分

【開催場所】 熊本県立美術館本館 文化交流室

【出席者】 協議会委員10名 事務局職員 文化課 分館指定管理者  
傍聴：記者1名

【主な議事】（1）令和7年度（2025年度）熊本県立美術館事業計画（案）について

（2）熊本県立美術館次期運営ビジョン（案）について

【議事概要】 1 開会 2 美術館長挨拶 3 会長挨拶 4 議事 5 閉会

協議会委員名簿、資料、概要等は別添のとおり

---

## 1 開会

（事務局）

それでは、ただいまから令和6年度（2024年度）第2回熊本県立美術館協議会を始めます。どうぞよろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、館を代表しまして館長の早田より一言ご挨拶をさせていただきます。

---

## 2 美術館挨拶

（館長）

みなさんおはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本年度2回目の協議会となりますが、来年度の本館事業計画、それから次期運営ビジョン——前回ビジョンについてはご説明させていただきましたが、出来上がりましたのでその説明をさせていただきます。なお、事業計画案では、来年度の常設展、特別展の計画案を説明させていただきますが、こちらは議会でご審議をいただく前の案でございまして、審議はこれからですが、美術館としては是非やりたいということで、準備を進めております。公開等につきましては、議会での審議の後ということになりますので、ご配慮をお願いできればと思います。

本協議会では、いつも皆さま方から大変前向きなご意見をいただいております。本日も来年度の計画、それからビジョンにつきまして、忌憚ないご意見を賜れば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

本協議会は、博物館法第23条、熊本県立美術館条例第21条にもとづく博物館協議会であり、熊本県立美術館の運営に対して広く意見を伺う場として設置されているものです。

各委員につきましては、別添の名簿のとおりです。なお、本日は委員12名のうち、

佐々木委員、本田委員の2名が、残念ながら都合によりご欠席で、10名の方々に御出席いただいております

それでは、協議会の議事の進行につきましては、規定により協議会会長が行うことになっておりますので、これから会長に進行をお願いいたします。

---

### 3 会長挨拶

---

(会長)

皆さん、おはようございます。今日もまた皆さまからのご意見でさらに素晴らしい美術館になっていくだろうと思っておりますので、どうぞご協力をよろしく申し上げます。

(会議の公開・非公開の審議)

それでは議事に入ります前に会議の公開・非公開についてですけれども、本日の議題内容には、非公開とすべき内容がないので、すべて公開ということによろしいでしょうか。

(委員一同賛同)

それでは、すべて公開として議事を進行します。

---

### 4 議事(1) 令和7年度(2025年度)熊本県立美術館本館事業計画案

---

それでは議事に入ります。議事の(1)令和7年度(2025年度)熊本県立美術館本館事業計画案について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

どうぞよろしく申し上げます。令和7年度(2025年度)熊本県立美術館本館事業計画案につきまして、資料にそってご説明いたします。前方のスクリーンをご覧ください。

令和7年度(2025年度)熊本県立美術館本館事業計画案
-----------------------------

(資料に沿って説明)

---

### 質疑応答

---

(会長)

ありがとうございました。それでは、ただいまの事業計画について、質問、ご意見がありましたら、よろしく申し上げます。

(委員)

資料の8ページの地域や施設との共働事業ということで、インバウンドのことがのっておりました。熊本においては、ご存じの通り台湾の半導体製造企業が進出してきてことで、大変にぎわっております。それに加えて、外国の人たちが多く熊本に移り住んでこられたり、観光に来られたり、インバウンドが非常に増加している状況にあります。これは経済的な部分の効力もあり、また、スポーツの面においても交流が盛んになっています。これに加えて文化と芸術も、外国の方々と色んな情報を交換し交流を進めたいと思います。資料にあるようにインバウンド需要の増加も見込まれることから地域の行事や熊本市の活動にあわせるということも必要なことですが、たとえば美術館近くの熊本市の繁華街にいくつもホテルがあり、外国人が結構泊まっています。そこから美術館に足を運んでもらえるように、ホテルの部屋や施設内の目の付く場所に案内をしておいて、美術館をアピールしていただきたいと思います。

もうひとつ、資料4ページの「にている美術」というタイトルがあります。一瞬なんのことだろうと思ったのですが、漢字にしないでひらがなにしているのは、漢字であるとあまりにストレートすぎるから捨ってひらがなにしているということでしょうか？

(事務局)

「にている美術」に関しては、当初は漢字でタイトル案が提案されまして、漢字だとストレートすぎるので、ひらがなにすると一瞬違和感を覚えてもらえて印象に残るのではないかと考えて、あえてひらがなで表記をしました。確かにひらがなだとちょっと迷いますね。

(委員)

迷っていいと思います。ちょっと考えて、「ああそういうことか」と気づくと思いますので、よく決められたなと感心いたしました。

(委員)

生誕100年山下清展や花とゆめ50周年が企画されていますが、県立美術館ができてからの50周年が企画されていなかったのがもったいないなと思いました。50周年というタイミングに間に合うのであれば何かしら企画をされるべきかと思います。

また、インバウンドについてですが、私たちも海外に行くと小さなところでも美術館に行きたくなります。その時に武士をテーマにしたり、漫画であるとか、くまモンであるとかといったところをテーマにすると、来るだけでもその場所に感動されますので、外国の方がいつ来ても満足できるような一部屋を設けておくということも考えるべきではないかと。

(館長)

50周年についてですが、今年が49年で来年が50年ですので、50周年に向けての企画を、しっかり作っているところです。この資料は令和7年度ですが、令和8年度が50周年ですので、その時に50周年ということで打ち出すことになります。ただ、

プレ的なこととして花とゆめは創刊50年、当館も来年50年ということを出そうと考えております。当然50周年というのは大きな節目ですので、展覧会だけではなく美術館の50年の歴史を振り返るような内容でなにかできないかとか、記念誌が作れないかとか、シンポジウムができないかとか、検討しているところです。一番早いところではロゴができておりますので、お披露目の場をつくってご説明したいと思っています。来年度のどこかの時点で、50周年に向けてこんなことをやりますという広報をしていくことになると思います。広報計画はいま細かいところを決めておりますので、次年度の事業計画にはまだ出せていないという状況です。

(会長)

来年の3月で50年目を迎える？ 開館50年はその次の年度ということでしょうか。

(館長)

開館50年をはさんで前後に周年事業を行います。1年間ではなかなか50周年記念全ての事業をできませんので、複数年に分けて実施する予定です。

(会長)

50周年をうまくPRにつかえたらさらにいいのではないかというご意見をいただきました。

(館長)

ありがとうございます。この美術館は色々な皆さまのお力でできているところもございますので、ここまで成長したのだというところを振り返る機会にしたいと思ひますし、その際はぜひ広く周知していただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局)

開館自体は1976年になりますので、その辺りを挟みまして周年事業を実施してまいりたいと考えており、現在準備をしているところです。それから外国人観光客の方の対応というのは、私たちも考えていかなければならないと思ひております。単純に観光にいらしたというだけでなく、こちらに住まれて新しい熊本の住民になられる方もいらっしゃいますので、そういった方々に作品の面白さなどをお伝えできればと考えています。

(会長)

ありがとうございました。次の議案にも今後のことが出てきますので、そちらにまず移りまして、また後でまとめて意見をいただきたいと思います。

---

## 議事（２）熊本県立美術館次期運営ビジョン（案）について

---

（会長）

続きまして、議事（２）熊本県立美術館次期運営ビジョン（案）について事務局から説明をお願いします。

（事務局）

熊本県立美術館次期運営ビジョン（案）についてご説明いたします。

資料 2～6 熊本県立美術館次期運営ビジョン（案）について
-------------------------------

（資料に沿って説明）

---

### 委員質疑

---

（会長）

ありがとうございました。令和6年から9年の第2期を見据えたビジョンということで、先ほど報告いただいた資料1の方もその期間に入っているということで、それを具現化して進めてらっしゃるという風に理解させていただきました。皆様の方からご質問、ご意見ございませんでしょうか。

（委員）

次期ビジョンのうち、（２）の教育普及活動の②幅広い年齢層が美術に親しむための取り組みとして、美術館所有図書を活用した普及啓発という項目がありますが、対象となる図書がどのくらいあるのかということや、美術館内のどんな場所にどのようなボリューム感でそういった場所を作られようとしているのかお尋ねしたいのがひとつ。二つ目が、吹き抜けホールにあるモニターで解説番組を流されていますが、多言語化対応ということで来館する可能性の高い国籍の方に対する字幕を付けられると、外国の方が来た時にこちらの美術館をより楽しめるのではないかと思います。それから、20年ほど前から美術館に毎週のように足を運んでおり、ホールのモニターには西洋絵画だとか日本の美術だとか、15分くらいの番組がたくさん入っていたと記憶しています。そこで美術について学ばせていただきましたが、今も永青文庫等の解説番組も非常に重要ですが、以前に比べるとかかっている番組の本数が少ないのではないかと、もっと番組の充実を図られると、それを参考にして美術を楽しまれる方が増えるのではないかと思います。

（事務局）

対象図書としては今のところ皆様に気楽にご覧になっていただけるようなものということで、美術館の所有図書の中には複数所有しているものがございます。そういったものを対象図書として考えておりまして、比較的自由にご覧いただけるよう想定しております。場所につきましても検討中ですが、できるだけ多くの方がいらっしゃっていただける場所ということだと、ロビーなどで作品鑑賞の邪魔にならないスペースに置かせていただいて、そこで自由にご覧になっていただくことを想定しています。

(事務局)

番組の本数が減ったように見えるということですが、新しいハイビジョンになってからしばらくたちますが、あれはコンピューター制御でいくつかの番組をループして回しています。そのプログラムは大きくは変わっていない状況ですが、確認したいと思います。映像の多言語化についてですが、数年前に何とかできないかと確認をしましたが、あの映像は今日我々が認識する動画の形式ではなく、スライドショーを動かすような、一枚の絵のデータがあってそれにナレーションが入っている形で作られているので、技術的に難しいことが分かりました。そこで難航しているところです。

(委員)

限られたスペースでどんな資料を置くのか、漫然とおいても仕方がないという気もしますので、例えばその時の展覧会にあわせて関連が強そうな資料をピックアップして置くとか、閲覧資料に対しての学芸員のコメントをつけて、展示との関連性を説明するか、そういった工夫もありうると思いましたので。

(会長)

素晴らしいご意見だと思いますので、ぜひ活かしていただければと思います。場所についても、建築物とのコラボレーションというか、雰囲気の中で書籍をみる心地よさというのものもあるかと思います。

(委員)

美術館に「来てから」の充実はすごく図られているように思いますが、ここにたくさん来ていただくための施策はどのようにお考えでしょうか。インバウンドのこともありますし、超高齢化社会に向けて、マイカーを運転しないとか、足が少し弱くなったとかいう方たちが美術にどう触れていくのかということも、今後どうされていくのかお尋ねします。美術館から歩いて30分くらいのところに住んでいますが、30分歩くのはきついと交通機関を調べると、市役所前まで行ってそこから上がってこないといけません。「しろめぐりん」に乗ろうと思うと、交通センターまで行ってそこから乗らないといけません。しかもホテルキャッスルやKKRホテルなどに停まるのが、確か片道運航で美術館の後に停留するポジションになっているため、美術館に行くには駅まで行ってぐるっと回ってくる遠回りをしないといけないようです。最短のルートを公共交通機関で行けるような工夫があると、外国からお見えの方も、車を運転しない方にとっても、気行きやすい場所になるんじゃないかと思います。せっかくいい場所に施設があり、いい展示をなさっているので、「来るまで」のところにさらなる充実があるといいかなと思いました。

(会長)

交通機関はなかなか変えることができないかもしれませんが、SNSも含めて呼び寄せ

るための手立としてどういう工夫を考えておられるかということで、お願いします。

(事務局)

資料本文でいいますと、資料6の5ページの地域活性化のための交流促進の中に、地域との交流や他の施設との連携があり、そういったところのお客さん呼び込むというところで、そうした施設への情報発信を積極的にやっていくという方向でまとめております。熊本城内にあるという立地を活かしまして、そういったPRを現在もやっているところですが、今後も強化していきたいと考えております。また、高齢者の呼び込みにつきましては長年の課題だと思っておりますが、どうしても高低差がある位置にありますので、今具体的に解決策を申し上げることはできませんが、少しずつ模索していきたいと考えています。

(委員)

スクールミュージアムとか、ミュージアムバスとかを、例えば高齢者向け施設と連携したり、協力関係を培っていくとか、そういったことがあってもいいのかなと思いましたので、申し上げました。

(会長)

今後高齢化率は上がっていきますので、対象にするのはいいかもしれません。

(委員)

時代に即応した速やかな対応をなさっていると、とても感復しております。その中でユニバーサルデザインの推進という項目を削除なされたということですが、ホームページやSNSなどのグローバル化への対応というそういう面での言及は他の項目にあるかと思いますが、ハード面で建築に対するユニバーサルデザインの推進は完了なさっていらっしゃるというお考えで削除なさっていらっしゃるのか、お聞かせいただければ。

(副館長)

安全安心の確保というところで環境を整えるという中で、今ご意見があったものも含め、できるところできないところ制約がありますが、ソフト的な面と併せて取り組んでいきたいと考えています。

(委員)

図書コーナーの件ですが、歴史的な場所に建つ文化施設ですので難しいとは承知しておりますが、ロビーとかに設置するのではなく増築してちゃんとした施設をつくるということできないのかなというのが、利用者側の希望としてございますので、お尋ねします。

(事務局)

図書コーナーだけでなく美術館全体の機能を拡張したいところですが、こちらが特別史跡ということで熊本市と国が管理をしており、増築はまかりならぬという制限がありまして、制度上できないというところ です。

(委員)

先ほどご指摘のあった図書コーナーの件と、外からいかにして人を呼び込むかというところで、カフェの充実というのを図書コーナーと一緒にされると、新たな魅力になるのではないかと思いますしお尋ねしようと思いましたが、増築はできないということでしたね。

(副館長)

今日ご意見をいただいた件もふまえて、のぞましい姿ということを検討していきたいと思しますので、今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

(委員)

美術館のインスタをフォローさせていただき、県PTAの理事会に持ち帰りインスタグラムのこととか色々報告をしました。やはり知らないという方が多くて、そこから伝えていけないといけないので、地道なことだと思いますが、私も持ち帰って保護者等で共有しております。美術館で何があるか分からない保護者が多いのではないかと思いますので、知っていただくためのツールを作っていくのが一番かと思います。私も一緒にひろめていきたいと思えます。事業計画の中にあつた花とゆめ展ですが、熊本県は高森高校に漫画のコースがありまして、美術の方も盛んになってくる県になってまいりましたので、そちらの件も踏まえてコラボなどもできたら楽しいだろうなと思ひながら、伺っておりました。

(委員)

先週まで分館の方で子どもの美術展を開催させていただきました。来館者が4,000人いくかどうかというところで、親子で来られたり、祖父母の方と一緒に来られたり、若い世代の方たちをはじめ家族で美術館に足を運ぶ機会になればということと、今後美術等々に親しむ、あるいは制作に携わるという子どもたちを育てたりといった人材育成の視点でも取り組んでいるところです。

県美展もやっておりますが、そちらも来館者について、毎年どうやったら来ていただけるかということを考えているところです。色々な方々が来られますが、周知という部分で難しい部分もあって、やはり親しい方々中心に来館されており、ふらっと立ち寄ったという方はどれくらいいるのかなという気はいたします。発信の部分と、育成をしていくという部分の両輪で美術館に親しむ機会というのを、いろんなところを巻き込んで進めていくというのが必要かなと思ひます。教育現場の立場としては展覧会のご案内があるたびにしっかり周知していくように考えているところです。

(委員)

感想になりますが、先ほどから人を呼び込むというお話があつてます。来年度どのような展覧会を企画するか、人を呼び込める展覧会を考えていくのかという点から事業計画を拝見しましたが、計画されている特別展3つは、集客力はもちろんですが、文化事業としてもどれも素晴らしい展覧会を計画されているなと思いました。特に3番目の花とゆめですが、漫画自体が日本を代表する文化ですし、50年の歴史を持つ花とゆめであれば、幅広い年齢層に訴求力を持った企画なので、おそらく幅広い年齢層の女性の方が押し寄せられるのではないかと考えております。現代美術館ではサンリオ展としてハローキティを扱われましたが、その時も大変幅広い年齢層の方がお見えになったと認識しております。いい企画をされていると思いながら拝見しました。

(会長)

皆さまありがとうございます。私も手でみる造型展を昨日、分館の方に見に行きました。価値のあるものを意味付けしたり、残していくためには、プロの方たちが必要だと強く感じました。

他に何かございませんでしょうか。それでは、これを持ちまして今回の議事につきましては終了させていただきたいと思っております。

(館長)

本日も本当にありがとうございました。この協議会は皆さま方に美術館を一生懸命応援していただいて、その上で様々なご意見を賜れる場所で、本当に素晴らしいと思っております。企画は学芸員中心に考えながらやっておりますが、それがまだまだ伝わっていないというところが確かに多いなと思っております。SNS等々で広報もするのですが、ものによっては47万もの方々に見ていただいているものもありますので、やはりSNSの力は大きいなと思っております。ただ、すべての年齢層の方が見られるかということ、そういうわけでもございませんので、地道な口コミといったものも進めていきたいと思っておりますし、その際にはぜひ皆さま方の発信力はそれぞれ非常に大きなものをお持ちですので、ご協力を賜れば大変ありがたいと思っております。

展覧会の内容についてもお褒めの言葉をいただきありがとうございます。美術館としてある程度収益というものを考えると、人気があるものを呼んだりしますが、そうは言いながらも熊本の歴史を伝えるようなもの、特に外国の方にも伝えられるような展覧会というのは、収益が見込めるものではありませんが、そういったものもやはり県立美術館としては大事にしていけないといけないので、バランスを取りながらしっかり考えてやっていきたいと思っております。

また、花とゆめ展については、私もガラスの仮面など最初の頃の世代で、ちょうど50年というのがありましたので、県立美術館50、花とゆめ50というプレ的なものとして位置づけをして、来年度、再来年度に本格的な50周年の特別なものやっと思っています。50周年に向けてはまた皆さま方のご意見、ご協力をいただきながら、美術館を知っていただく大きな機会にしていきたいと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。本日は本当にありがとうございました。